



集団たま。

p.1 おっぱい展 出展作品企画書 集団たま。

おっぱい展 出展作品企画書

集団たま。

提出物 ③、⑤、⑥をここにまとめて記載します。

③おっぱい展作品プラン

タイトル

『You&I』(仮題)

アーティスト名

集団たま。 ※別途プロフィール添付(添付1)

担当

総合ディレクション：根本みを(集団たま。) オブジェ作成及び空間プロデュース：中西彩華(集団たま。)

サウンド・インスタレーション：根本 忍 (※別途プロフィール添付(添付2))

作品ディスクリプション(案)

すべてのおっぱいにイエスを。Oppai are Oppai。

OはOppaiのO。 O=まる。『すべてのおっぱいに丸をつけよ。』

大きいおっぱい、小さいおっぱい、潰れたおっぱい、かけたおっぱい、歪んだおっぱい、引きつれたおっぱい。

1つしかないおっぱい。2つのおっぱい。3つのおっぱい。

女のおっぱい、男のおっぱい、子供のおっぱい。MtFのおっぱい、FtMのおっぱい、人工のおっぱい、術後のおっぱい。

どんなおっぱいも、そこに、ある。

概要

2017年10月に熊本で上演した演劇作品『YOU & I ~顔上げて、目線を上に、アップアイ、おっぱい~』

および、2018年7月に上演予定の同作品を先行作品とし、そのコンセプトを切り出し、

「おっぱい展」のためにリコンストラクションします。

オブジェと写真パネルによるインスタレーションと、上演記録とテキストをソースにしたサウンド・インスタレーションにより、おっぱい空間を作り出します。

※資料として上演台本を別途添付します。(添付3)

⑥-1 作品コンセプト

わたしたちはいつから「おっぱい」を失ってしまったのでしょうか。

命をつなぐ根源的なものとしてのおっぱい。



集団たま。

そしてそれは多くの場合、人間の口唇期におけるアタッチメント(愛着関係)の象徴としての力を持っていることでしょう。

(またおっぱいの先には、身体という殻に閉じ込められた人間が、他者と関わるための小さな小さな開口部があります。授乳という営みは、小さな命をつなぐだけでなく、その小さな開口部から、人と人という個体の輪郭をわずかに開き、関係をつなげていく営み、と解釈することもできます。)

安心や愛着の象徴だったものを、いつの間にか忘れて、商業的に消費される”モノ”に変化させてしまう。

口唇期から遠ざかっていくに連れ、その時の価値観を軽視し忘れてしまっていないでしょうか。

たとえば私達が無意識に内面化しているおっぱいの美しさってなんでしょうか。

アイコンとして美しく描かれたおっぱいってよく考えたらむしろグロテスクかもしれません。エロ漫画の爆乳がグロテスクのように、過度に整ったおっぱいもまた。

そもそも、肉体とはグロテスクなもの。そこに「美」を見出すのはとても文化的で恣意的な営みです。

思い込まされている”美しいおっぱい” ”売れるおっぱい” ”過度に底上げされ、増幅された欲望のはけ口としてのおっぱい” から逃れる術がどこかにあるはず。

もちろん、授乳だけがおっぱいの役目ではなく、性的なアイコンでもあります。しかし性行為も本来は「命をつなぐ営み」。

けして美しいだけではない、グロテスクなおっぱいを正視し、そこにYESを言うこと。○を付けること。

口唇期のわたしが、すでに獲得できていたこと。

それを取り戻すことは、身体を取り戻すことであり、「性」を取り戻すことであり、「自分」を取り戻すことかもしれません。

⑤スペースをどのように「おっぱいの世界」にするか

廊下のスペースを用いて、アーチ状のオブジェによるインスタレーションを作成します。

①頭上には大いなるおっぱい=命の象徴としてのおっぱい。

②足元には多種多様な形状のおっぱいを転がします。(手に取り触れることができます。)

③左右の壁には写真のパネルを飾ります。

赤ちゃんと母親の授乳風景、おっぱいを卒業した子どもとおっぱいとの関わり。

父親のおっぱいと子供の関わり。男女のおっぱいの関わり。トランスジェンダーのおっぱいの関わり。

女性の肉体同士でのおっぱいの関わり、男性の肉体同士でのおっぱいのかかわり。

p.3 おっぱい展 出展作品企画書 集団たま。

できる限り多種多様な「おっぱいとの関わり」の場面を撮り下ろし、
また広く写真を公募し、パネルにします。

- ④「大いなるおっぱい」には吸い付く真似をすることができ、記念の写真撮影を可能にします。
- ⑤また、「着れるおっぱい」オブジェを来場者に自由に着てもらえるよう設置します。

—

また、サウンド・インスタレーションにおいて、

2018年7月に福岡市にて上演予定の舞台作品『YOU & I～顔上げて、目線を上に、アップアイ、おっぱい～』の脚本の朗読音声及び上映記録音声を音素材として新たに構成する音響作品を、アーチ状オブジェを中心に廊下に沿って配置する複数の出力装置から再生し、空間的な音響構成を試みます。

また、実際の授乳音、及び用意した一言テキストを読み上げる音声などの音源をWebやSNSなどを利用して募集し、集まったおっぱいに係る不特定多数的「声」を断片化し再配置をすることで構成される音響作品も構想しています。

通行の妨げにならない場所にスピーカーを複数設置し、音源を再生します。

サウンド・インスタレーションの詳細資料は別途添付します (添付4)

※会期中にパフォーマンスが可能な場合、このインスタレーションの空間、音場を利用し、有機的に関わりを持ちながら、上演テキストを使ったしたリーディング企画を考えております。

⑥-2ラフスケッチ



①大いなるおっぱい

④写真撮影可能

③おっぱいとの関わり
写真パネル
(大小様々な展示)

②多種多様なおっぱいオブジェ
(実際は色形が様々なものを製作します)

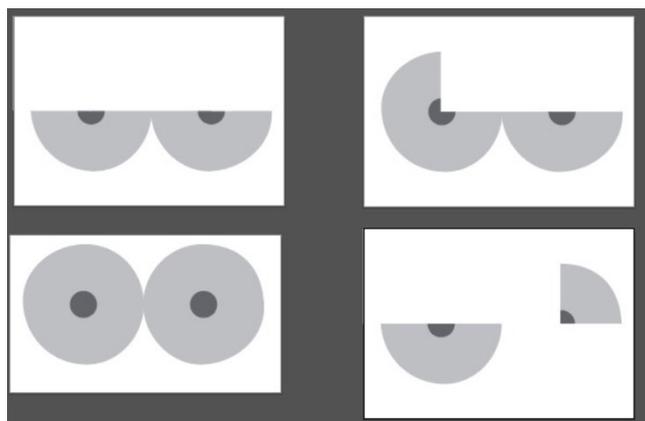


⑤着れるおっぱいオブジェ
(サンプル)
布、紙粘土、アクリル絵の具

その他参考作品



満ちたおっぱい
欠けたおっぱい Tシャツ
(2017年熊本公演での着用衣装)



満ちたおっぱい、欠けたおっぱい。
Tシャツ図案



